

# 飯田市における体験型観光の 取り組みについて

2015年5月

飯田市観光課 鈴木 義光

# 1. 飯田市の概要



# 飯田市の概要

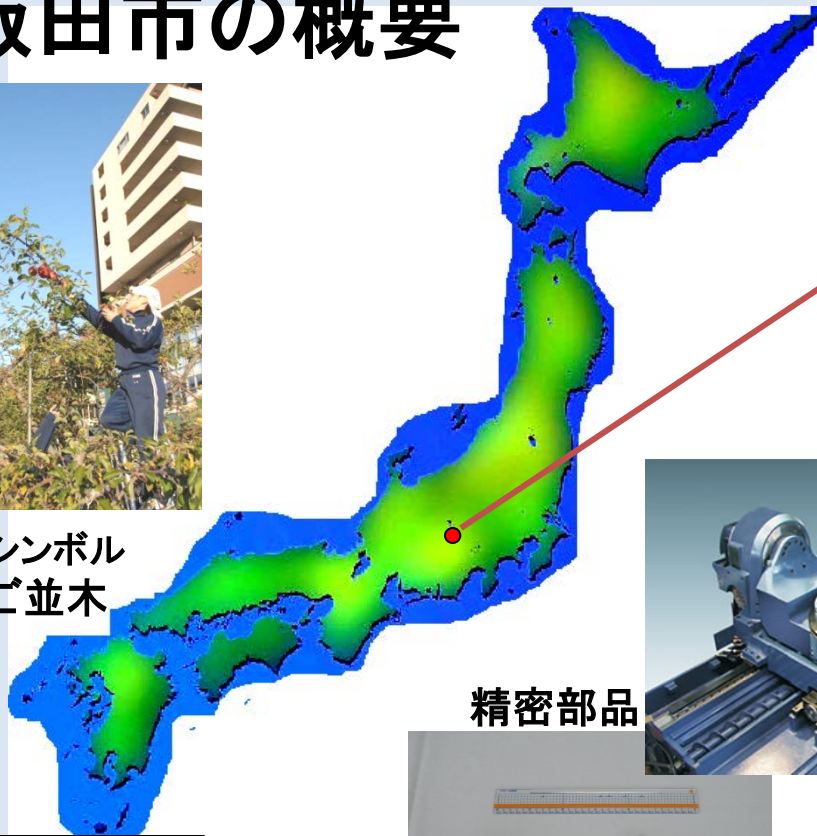
## 多様な自然・風土・文化

○面積	658.73km <sup>2</sup>
○人口(H27.3.31)	104,284人
○世帯数(H27.3.31)	39,358世帯
○標高(市役所)	499.02m
○日照時間(2010年)	1,946.7時間
○森林面積(割合)	全市域の84.6%



街のシンボル  
りんご並木

多様な主体によるまちづくり



精密部品



多様なものづくりの集積地



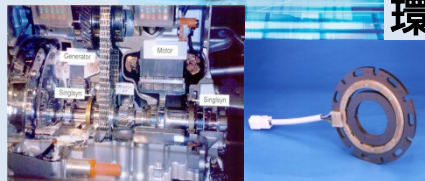
伝統産業



人形劇のまち



環境産業




三菱電機柿飯田工場19



市田柿





南アルプスと中央アルプス  
に抱かれた山都 飯田。

東西の自然・文化・交通が交わり、  
人と人が交わるところ。





# 街

空あかるく、風にほやかなるまち





里



脈々と、歴史を育む農村



下栗の里

山

急勾配で育った独自の文化

# 主な観光施設の紹介① まちなか



## 川本喜八郎人形美術館

人形美術家・故川本喜八郎の人形を収蔵する美術館。「人形劇のまち飯田」の拠点施設となっている。



## りんご並木(日本の道百選)

美しい街の復興を願った、人々の心が通い、思いが交歓する心の並木道。





## 主な観光施設の紹介②

# 天龍峽



奇岩、絶景が造る  
自然美と豪快な川下り  
名勝天龍峽を愉しむ。

JR東海 飯田線 秘境駅の旅

岡谷と豊橋を結ぶ飯田線は、長大ローカル線として知られ、車窓からは素晴らしい景観を感じることができ、秘境駅としてここ最近注目されている。



文化経済自立都市



## 主な観光施設の紹介③

# 遠山郷



遠山郷 霜月まつり

湯立て神楽の古い形態を伝承している。また、千と千尋の神隠しの原点になったと言われている。(12月開催予定)



下栗の里  
(日本の里100選)

急傾斜の狭い土地を耕作した畑が、まさに「耕して天に至る」光景が日本のチロル。

しらびそ高原

南アルプスの大パノラマは必見！







はだか祭り

早春の天竜川に神輿をかついで  
飛び込む勇ましさ。



時又灯ろう流し



七久里はだか祭り



花火や祭りが多い  
のも飯田の文化と  
心意気！

大宮神社の祭り



飯田りんごん



# 南信州の心を結ぶ技と風土が創り上げた味

伝統を結ぶ繊細な技  
(水引工芸)



小京都と呼ばれる城下町  
茶の湯に親しむ気風 (和菓子)



お茶請けやご  
飯の友に  
(漬物)



代表的な味  
(五平餅)

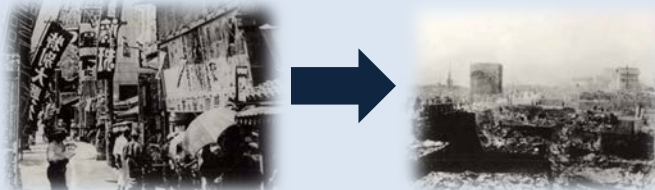




# 市民自らが創り自らが守り育てるまち

## 昭和22年飯田大火

昭和22年大火により市街地の2/3を消失  
被災戸数約4000戸



城下町の家並が焼失

## りんご並木の誕生

- ◆大火後、地元中学校生徒たちが「自分たちの手で美しい街をつくろう」という夢を抱き、りんご並木を構想し、40本のりんごの木を植樹。すべての管理行程を生徒が実施(現在まで続く)



## 裏界線の誕生

- ◆裏界線は、南北に走るいくつもの通りを東西に貫く細い路地。
- ◆「ノーモア大火」を合い言葉に、住民が私有地の裏側(背割り)を1mづつ無償提供し、街区のほぼ中央に約2mの防火帯として整備した路地。



## りんご並木のもたらしたもの

- ◆地域に対する誇りの醸成
- ◆「自らのまちを自らで守る」という自治の精神
- ◆「公」の場を自らの手で維持・管理する「まちづくりの基本精神」の構築

## 社会資本の再整備

- ◆市街地再開発事業によるまちなか居住と複合機能拠点づくり
- ◆「まちづくり会社」によるマネジメント

## 市民主導の都市経営により築く新時代

- ◆地域固有の価値の創造 ◆複合的視点での事業実施
- ◆さらなる市民の力の集約集中化 ◆人の暮らしにあった効率よい機能再編
- ◆アクセスしやすい都市交通基盤整備 ◆低炭素都市づくりに向けた事業展開





# 災害とのたたかい ~「飯田りんご並木物語」~



1947(S.22)大火  
市街地の80%を焼失



焼け野原に中学生が40本のりんごの木を  
植えてから半世紀が過ぎました



## 刻まれた300年の歴史

- ◆かつて伊那谷には29の人形座があった。
- ◆現在、伊那谷に4座（飯田市に2座）が伝承。
- ◆人形師を迎え入れて、技術を高めた。



在銘最古のかしら



黒田人形  
(国指定重要無形文化財)

## 人形を常設展示する地域人形劇センター

### 川本喜八郎人形美術館

- ◆平成19年3月オープン
- ◆人形美術家川本喜八郎氏は「この飯田の地こそ人形たちに一番ふさわしい場所」と語り、人形200体余を寄贈。

### 人形劇センターの設置

- ◆「小さな世界都市」の実現に向け、人形劇に関わる多様な主体への専門的な支援  
(人形劇文化向上への貢献)



川本喜八郎作  
「諸葛亮孔明」

## 国内最大の人形劇の祭典 今年37回目を開催

### いいだ人形劇フェスタ

- ◆1979年(国際児童年)「人形劇カーニバル飯田」として第1回開催
- ◆1999年 市民主体(実行委員会)の「いいだ人形劇フェスタ」になる

【フェスタ2014の実績】

- ◇観劇者数：46,328人
- ◇参加数：371劇団
- ◇公演数：498公演
- ◇ボランティア数：2,150人



いいだ人形劇フェスタ

# 小さな世界都市飯田 いいだ人形劇フェスタ



今年37年目を迎える日本最大の人形劇の祭典。  
 毎年、アジアを中心とした海外、日本全国から約  
 400の人形劇団が集う。  
 地域130会場、500公演の地域平面の祭典。  
 2,000人を超えるボランティア市民がこの祭典を  
 支える。  
 今年度のいいだ人形劇フェスタ2015は、「見る 観る 魅入る」  
 をテーマとして8/4(火)～8/9(日)に開催されます。

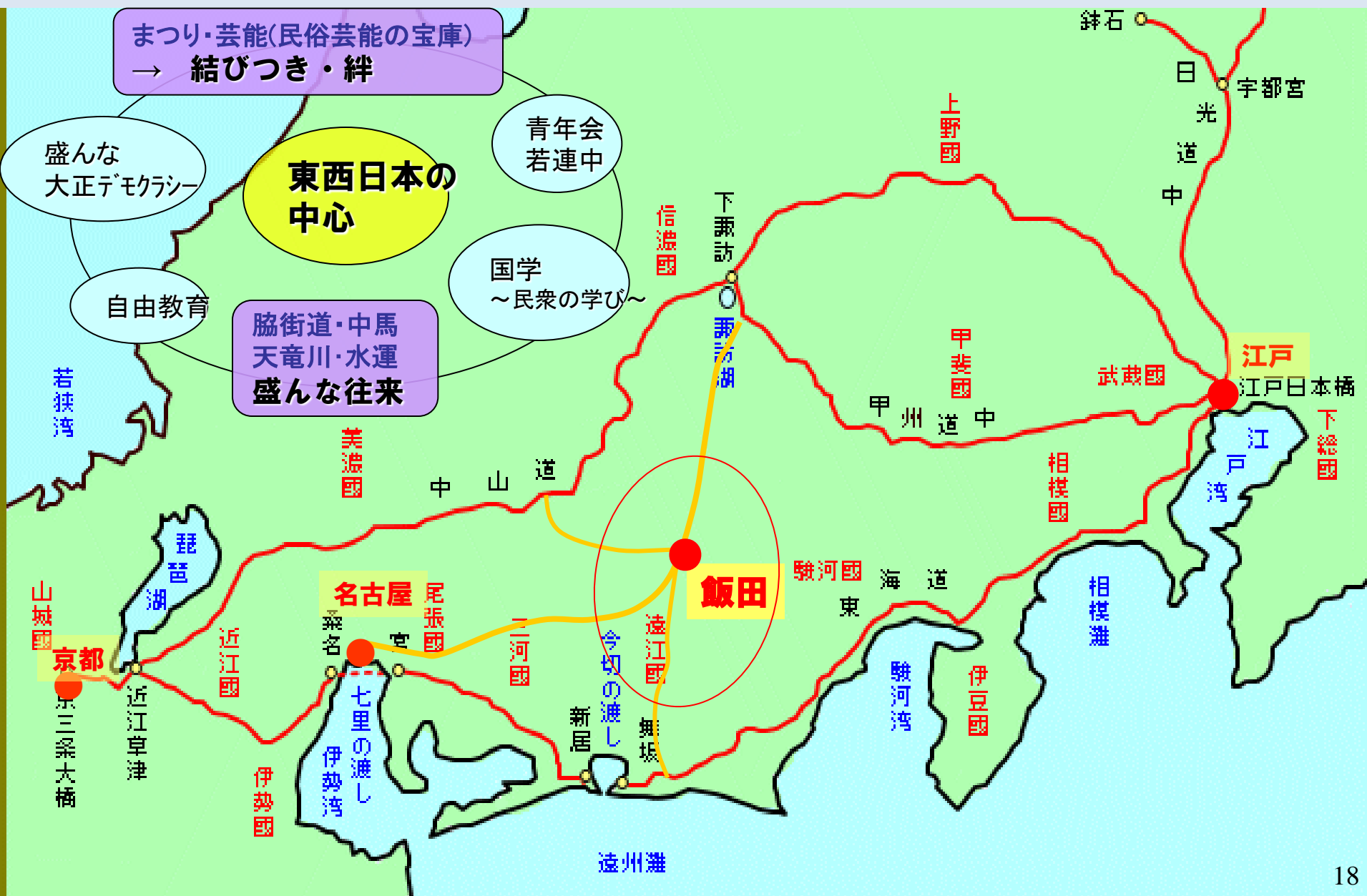






# 「先取の精神」と「学究性」に富む気質

～ 民衆自らの学びと人々の結びつき・絆 ～







リニア中央新幹線実験線





飯田

名古屋

東京

大阪

奈良

東京・大阪から  
高速道路で約4時間

2027年リニア中央新幹線が開通  
すれば、東京から40分



## 2. 体験型観光の取り組み

～南信州観光公社～  
体験教育旅行

# 体験教育旅行誘致事業から南信州観光公社の設立まで

1. 通過型の観光地から滞在型拠点型の観光地づくり(=旅の必然性づくり)を目指し、1995年に飯田市商業観光課が体験教育旅行誘致事業の開始を決定し、1996年から体験教育旅行の受入を始める。
2. 年々利用団体数が増加していく中で、体験受入先の拡大と事業を継続的に専門性を持って担う窓口組織の必要性が生じてくる。
3. 2001年1月飯田市をはじめ1市4村及び10企業・団体の出資を受けて体験型観による南信州広域の地域振興を目指す組織として、(株)南信州観光公社が設立される。  
2004年に飯田下伊那全18市町村(合併により現在は14)の出資を受ける。
4. 設立以来、自治体からの補助金は無く、独立採算による経営を行い、2004年より単年収支が拮抗し、現在は単年黒字を実現。主な業務内容は体験型教育旅行のセールス、受入・コーディネート。一般旅行者向けの桜・和菓子・トレッキング等に特化した体験型旅行の提案と実施。各地からの視察研修依頼に対しての研修会と相手側の実情に即した各種体験や料理提供のコーディネート。



# ほんものの体験が目指してきたもの

- ・本物の体験を実現することで、そこに感動が生まれる。

→地域の人がインストラクター・受入農家として関わり、普段行っていることをそのまま、訪れた学生に体験させる。そのことを通して、学び、発見、

感動が生まれる。瞬間的な驚きではなく、心に染みるまでの時間と交流により、心動かされる感動を目指す。

# 体験プログラムの様子

～生活・生産・自然の中で地域の人々が関わり、体験する人が主人公になる。  
体験活動を通して「学び」「発見」「感動」といった副産物が生まれる～



地区で保存している棚田での田植



少人数での農家民泊





職人の魂を感じる草木染め体験



天竜川をチームワークで下るラフティング



地元のお母さんに習う五平餅作り



ガイドとともに冬山の魅力を体験



# 体験プログラムと受入システムのあり方

～生活・生産・自然の中で地域の人々が関わり、体験する人が主人公になる。

体験活動を通して「学び」「発見」「感動」といった副産物が生まれる～

このようなスタイルのプログラムを受入れるためには

- ・プログラム理念の確立

（ほんものの体験とは？継続的に関われるのは？）

- ・継続性を伴ったコーディネート組織の一本化

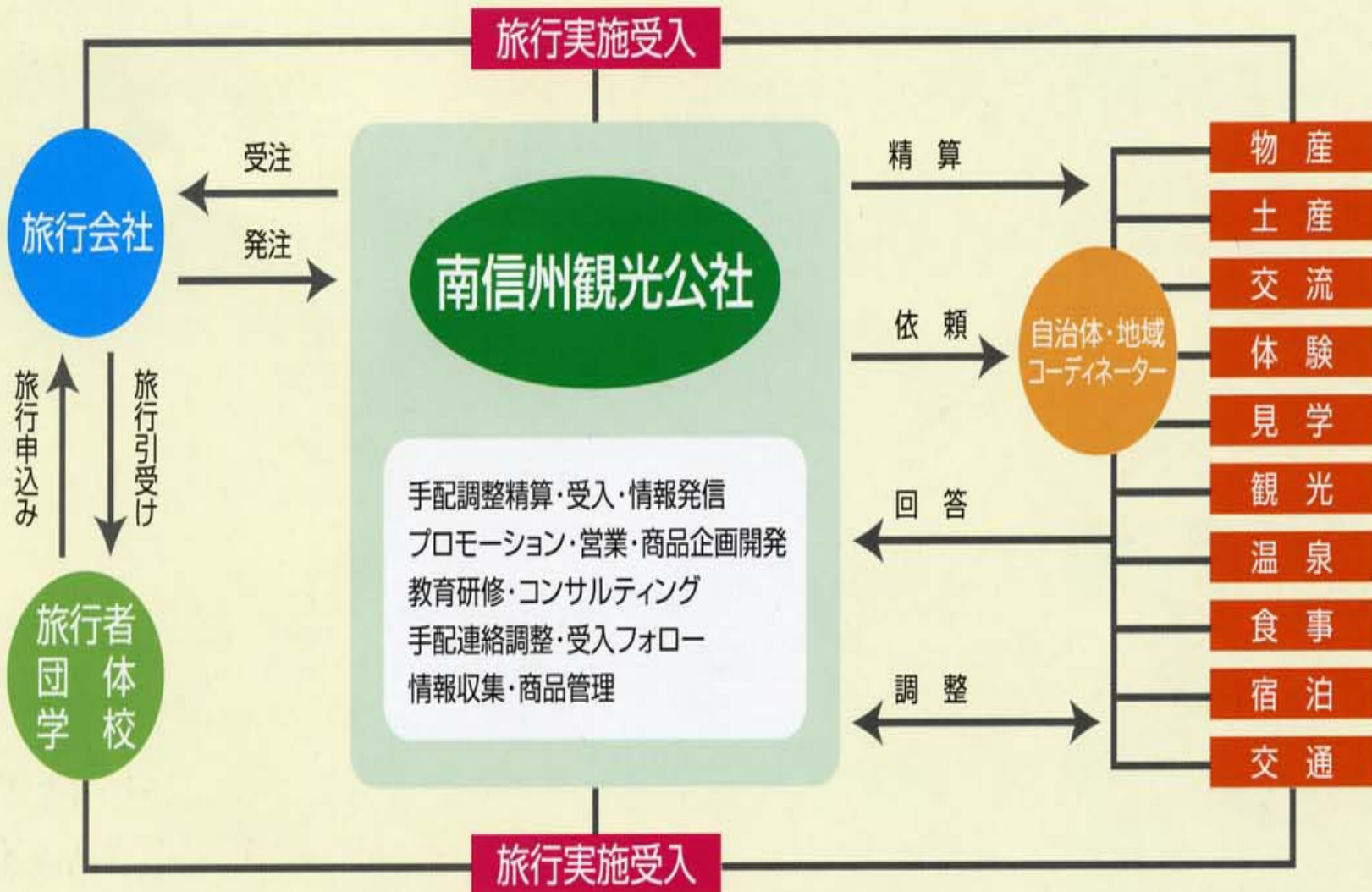
（内向き・外向きの窓口）

- ・来る側がモチベーションを持って訪れることが出来るような事前情報の提供

（普通の観光との違いは？どんな人が受入をしているのか？）

- ・コーディネート組織の自立（活動と運営）

# 受入システムについて





# 体験プログラム・農家民泊受入時に求められる コーディネート組織の対応について考える

- ・旅先で不安に思うことは？
  - 変更・緊急時の対応
- ・体験/民泊時における不安要素は何か？
  - 事故・怪我・病気発生時の対応

これらの不安を払拭させる対応を考える。受入先の方々も同様の不安があることを忘れない。

→24時間連絡体制・救急医療機関・事前情報

# 南信州観光公社

## (体験教育旅行)

本事業は、地域の既存施設や環境、産業、人材を最大限に活かし、人と人の交流から訪問者に「飯田のプログラムははずしがたい」と言われ、感動を与えている。特に平成10年からはじまった農家民泊は人気プログラムとして南信州の一番の特色となっている。

## (桜守の旅)

南信州エリアには樹齢三百年を越える老桜・名桜が点在している。これらをネットワークし案内人付きで桜巡りを実施。約一ヶ月は見頃の桜を観賞でき、ライトアップによる夜桜ツアーもある。従来の郡桜型花見から地域にある一本桜の名桜に目を変え、内外に好評。年々ツアー客が増加している。

## (和菓子探訪・歴史探訪の旅)

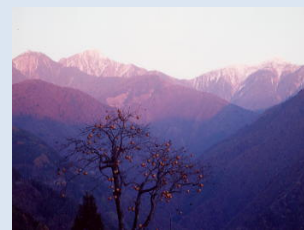
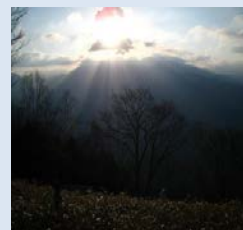
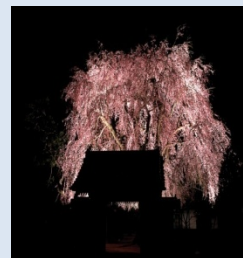
小京都と言われる市街地は古くからの和菓子店が数多く点在。ガイド付きで歴史散策と和菓子店を回る旅が好評。桜守にちなんだ菓子も登場。和菓子店の活性化に寄与している。

## (名山トレッキング)

南信州には日本百名山に入る山など多くの名山がある。地元の専門インストラクターが動植物の話を交えながら生態系を解説するトレッキングツアーは人気がある。また、秘境を巡るウォーキングも人気が高まっている。

## (スノーシュートレッキング)

中高年の登山やトレッキングが盛んであるが、初心者でも雪上を歩けるスノーシューのトレッキングを実現。晴天率の高いメリットを生かした本事業は「冬山に登ることは諦めていたけど、登れて感動」等の評価。





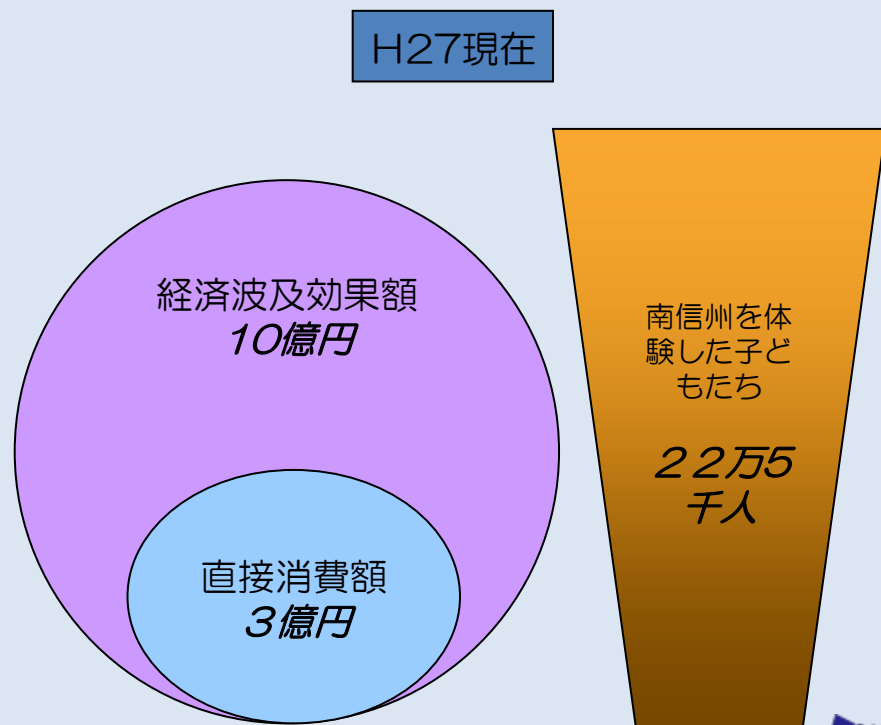
# ほんものを体験する 体験教育旅行

平成8年（1996）の3校より受入を開始した「体験教育旅行」は、平成26年（2014）に訪れた学校数は77校、利用プログラム数32,000件と推移している。（一般団体（成人向け）は、160団体、3,700人、利用プログラム数3,800件）

人気プログラムは、天竜川をゴムボートで下る5万ヶがや乗馬があるが、農家民泊を含む農林業体験が6割を超え、南信州の最も特徴となっている。その体験や農家民泊を支える農家は、南信州（飯田下伊那）全域に拡大し、現在およそ400戸となっている。

## 春夏秋冬、180プログラムに及ぶ様々な体験

アウトドア アクティビティー	アウトドアの学び 11プログラム
農林業体験	農業・農山村の学び 20プログラム
味覚体験	伝統・地域食の学び 29プログラム
伝統・クラフト	技・達人の学び 20プログラム
環境学習	山・森林・川の学び 38プログラム
自然・文化・産業	自然・文化・産業の学び 17プログラム
その他	45プログラム（案内人と行く散策コース、野外キャンプ、トレッキング、研修、施設見学等）







桜の花見をエコツアーに変えた

# 南信州桜守の旅



南信州は彼岸桜の宝庫

樹齢約350年の名桜が80本を超える



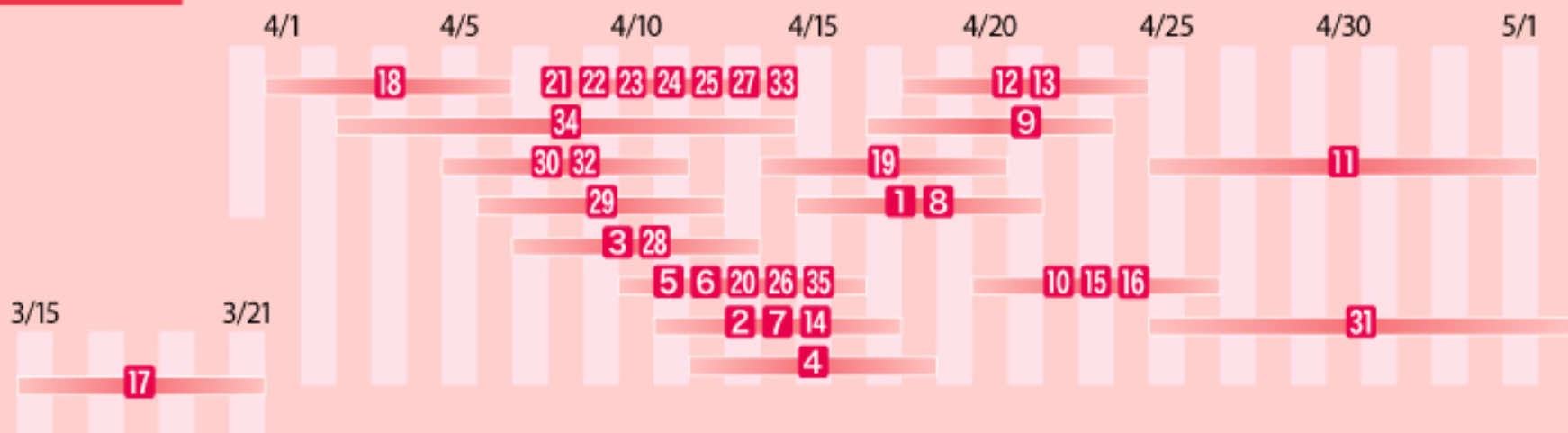
# 桜の見頃は一週間から一ヶ月へ



市町村の境界を超えて考えれば、広域と標高差で桜の見頃は、1週間から1ヶ月に拡大できる。

## 桜の見ごろ

※3月15日～5月2日にかけての見ごろ(平年)となります。



17 緋扉桜(天龍村)、18平岡の桜(天龍村)、21正永寺の枝垂桜(飯田市)  
4 瑠璃寺の桜(高森町)、1 大西公園の桜(大鹿村)、

# 桜守を育てる



トし募はら命名か開  
ストをドはら命名か開  
インタードをドはら命名か開  
イクタードをドはら命名か開  
市民ラクガイ集。桜守（さくもり）とし、毎年ら研修会を催。



# 桜守の旅の効果

市民インストラクターによる地域資源の見直し。以前は一本桜の観光資源化は考えられなかった。

桜守(ガイド)が同行し、名桜の由来、暮らしとの結びつき、樹木医的見地など話し、顧客満足度が高まる。

桜守(ガイド)が同行する為、トイレ・ゴミ・根元の踏み荒らし問題が発生しない。特産品販売施設への立寄り増加。

旅行業界からの高い評価。集客は初年度から3000人を超える。平成17年は1万人を見込む。

# 夜桜ツアーへの発展

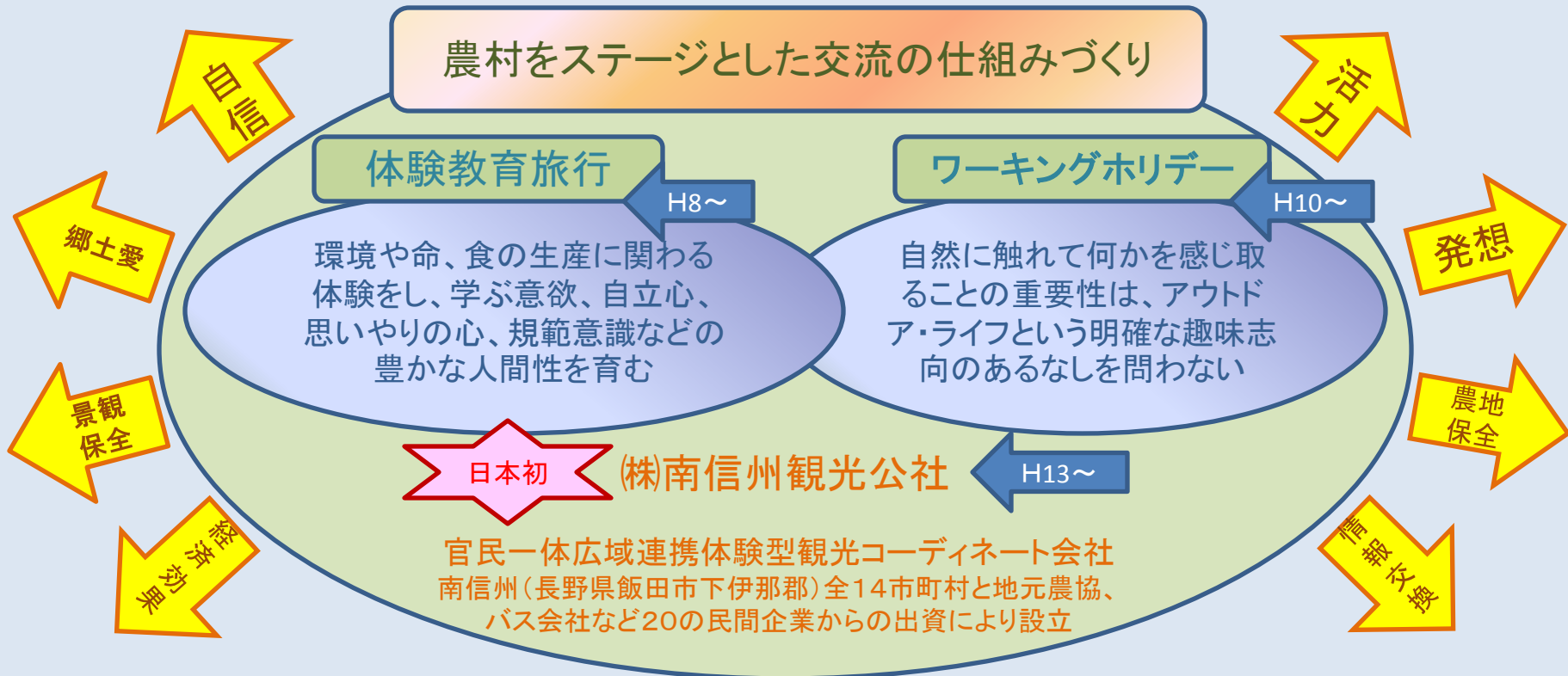
— 名桜ライトアップによる宿泊獲得戦略 —







# 住んでよし、訪れてよしの地域づくり



**南信州が培ってきた気風・風土**

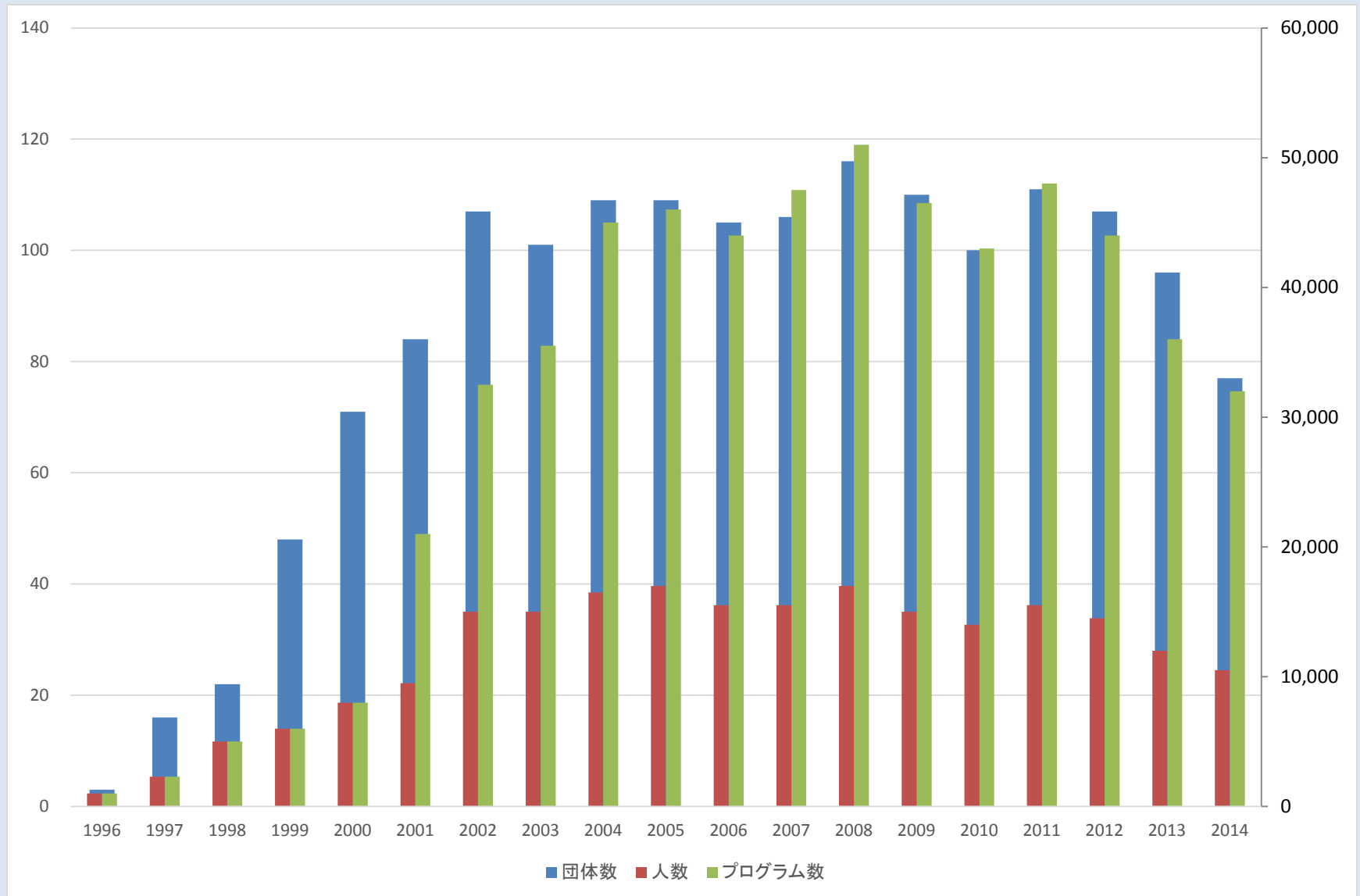
- ・農業をはじめとする地域課題を自ら考え解決しようとしてきた
- ・域外の人々との交流を積極的に心がけてきた
- ・地域文化を守り育ててきた

自然豊かな田舎が潜在的に持つ「学びの力」「癒しの力」

## 4. 体験型観光の受け入れ実績の推移



# 体験教育旅行受入実績の推移



## 5. 体験型観光における課題



# 受入農家の確保

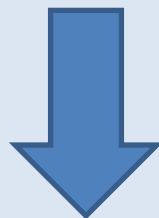
高齢化及び後継者不足により困難



- ・農家民泊に必要な『簡易宿所』の資格取得に必要な費用の助成及び指導
- ・農家同士の勧誘(口コミ)による広がり

## 他の受入地域との差別化

体験教育旅行の市場拡大による受入地域  
同士の競争が激化



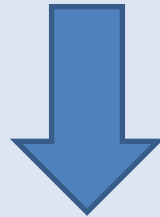
- ・飯田市のコンセプトである“ほんもの”体験
- ・受入農家、インストラクターを対象にした研修会の開催



## 6. 今後の展開について

# 体験型企業研修

社会人向け、企業向け人材育成プログラムの実施



- ・メンタルヘルス、メンタルタフネスに対する施策
- ・発想力、コミュニケーション能力の向上



# インバウンドの推進

海外の学校の受入れを積極的に実施



- ・受入側の不安の解消
- ・長野県が主体となっている長野県学習旅行招致推進協議会との連携